

開催レポート

Promoting India to the World and the World to India



IT & CM India開催

新たなマーケット創出を狙い IT & CM India開催

8月21日(火)～23日(木)の3日間、デリーにあるIndia Expo Center & Mart (IECM) において、インド初上陸となるIT & CMシリーズのインド版「IT & CM India (Incentive Travel & Conventions, Meetings India)」が開催された。IT & CM Indiaは、“Promoting India to the World and the World to India”をテーマとする、国際的なMICEビジネス、教育、ネットワーキングイベント。今回、本誌もヨーロッパやアジアを中心とする招待メディア(約40人)の一員として、招待を受け、参加することができた。

主催は、他のIT & CM 同様、TTG Asia Mediaで、共催としてIndia Convention Promotion Bureau (ICPB) が名を連ねている。Global Business Travel Association (GBTA)、International Congress & Convention

Association (ICCA)、Outbound Tour Operators Association of India (OTOAI)、Pacific Asia Travel Association (PATA) が後援し、中でも、GBTAとICCAは会場内で、独自のプログラムを展開し、人材育成面の強化を担当した。

IT & CMシリーズの展示会最大

の特長は、何といても招待バイヤーの多さだ。世界各国から200人弱が招待され、会期中に5,000件のビジネスマッチングが実施される。バイヤーは、訪問ブースや訪問企業の資料を手に、指定された時間に会場内を移動して、出展者を訪ねることになる。





展示会場入口のマレーシア・パビリオン



手前がアラブ、奥が香港のブース



シンガポールのパビリオン



地元インドのICPB ブース



インドネシアのパビリオン



熱心なビジネス・マッチングは各ブースで展開



レジストレーションは国際色豊か



ホステッド・ランチではカレーが主役



ヨーロッパ人が目立った招待メディアの面々

IT & CM Indiaのメイン・イベントとなる展示会の会場となったIECMのホール1には、海外からの出展を中心とした79社・団体、10ブースが展開された。中国本土からは旅行代理店であるCITSの上海ブランド、パビリオン出展した香港には、クラウンプラザ香港や、ホリデーイン、マリオットなどホテルを中心に、ディズニーランドリゾート、オーシャンパークなどベニューも含め12社が参加した。インドネシアからは、観光・創造経済省が音頭をとり、コンラッドやグランドハイアットなどホテルのほか、旅行代理店、食品商社等12社・団体がパビリオンを構成した。

マレーシアは、マレーシア・コンベンション&エキジビション・ビューロー（MyCEB）を中心に、ホテルやベニューなど9社・団体がパビリオン出展し、シンガポールからは、Singapore Association of Convention, Exhibition Organizers and Suppliers (SACEOS)を核として、

7社・団体がパビリオンを構成した。

その他には、シンガポールのHPLホテル&リゾートが独自出展。韓国からは、釜山メトロポリタン・シティ・ホールとDMCコリア、アラブ首長国連邦からは、アブダビ・ナショナル・エキジビションセンターとアブダビ観光文化庁がそれぞれブースを展開した。また、地元インドからは、ビューローやホテル、旅行代理店など13社・団体が参加した。

展示会場奥には、グローバル・メディア・ゾーンが設けられ、オーストラリア、ベルギー、英国、ドイツ、マレーシア、メキシコ、ニュージーランド、ポーランド、シンガポール、スロベニア、南アフリカ、韓国、スペイン、トルコ、インドの15カ国から媒体が出展された。

招待メディア、招待バイヤー、出展者の宿泊先とし、オフィシャルホテルが指定されており、メディアはヒルトンMayur Vihar、バイヤーはダブルツリーとジェイピー・グリーン・ゴルフ&スパ・リゾート、出展

者はラディソン・ブルー・ホテルに宿泊。ジェイピー・グリーン・ゴルフ&スパ・リゾートとラディソン・ブルー・ホテルは会場に近く、ヒルトンMayur Viharとダブルツリーはバスで30分くらいかかる。それぞれのホテルでも、プログラムが組まれているため、空港、展示会場、各ホテルには、無料のシャトルバスが運行し、移動のストレスは感じられない。このあたりは、IT & CM Asiaで培ったTTGのノウハウが活かされている。

新規オープンも インドのMICE施設

今回メイン会場となった、IECMは、オープンが2006年の比較的新しい展示場だ。立地的には、ニューデリー中心部からは1時間強かかるグレーター・ノイダ地区にある。総展示面積は28,000㎡で、各3,500㎡の8つの展示ホールで構成される。展示場のほかに、会議室、バンケット・



プレ・ショー・ツアーに参加した招待バイヤー



MyCEB のメディア・ブリーフィング



香港政府主催のホステッド・ランチョン



インドネシアのメディア・ブリーフィング



インドネシア主催のホステッド・ディナー



IT & CM India のレセプション・ディナー ステージではインド音楽の披露も

ホール、VIPラウンジ、ビジネスセンター、レストランなどが用意されており、展示場に続くマートには、関連企業やショップなどが軒を連ねている。

以下では、インドの展示場、コンベンション施設について紹介することにする。

○アヤッティ／デリー

今年8月中旬にオープンしたばかりのコンベンション・センター。コンベンションホールを中心に、17の会議場が設けられ、周りを宿泊施設のヴィラが取り囲んでいる。中には、スパやウェルネス・センターも完備している。

○スラット・インターナショナル・エキジビション&コンベンション・センター (SIECC) ／グジャラット

2010年に開業したスラットは、展示場が1,800㎡から10,500㎡までの5ホール、1,000人収容のオーデトリウム、10～250人収容の6つのカンファレンスルームがある。VIPラウンジ、プレスルーム、メディカルルーム、ビジネスセンター、トラベルセンターも完備。

○ハイデラバード・インターナショナル・コンベンション・センター (HICC) ／ハイデラバード

インドを代表するコンベンション・センター。5,000人収容のメイン

ホールのほか、最大6,000㎡にまで拡張可能な6つのホール、特別会議室やVIPラウンジを含む32の会議室を誇る。

○ハイテックス・エキジビションセンター／ハイデラバード

2003年にオープンした展示場。32,000㎡強のオープン展示エリアのほか、3,500㎡のホールが3つある。VIPラウンジ、メディアセンター、ビジネスセンター、レストランも完備されている。

○ルネッサンス・ムンバイ・コンベンション・センター／ムンバイ

21,368㎡のミーティングスペース



ICESのメディア・ブリーフィング



HPL ホテルズのメディア・ブリーフィング



全プログラムの最後を飾ったメディア・フィードバック・セッション

を誇るホテル併設型コンベンションセンター。17の会議室に加え、グラウンド・ボールルームを完備している。

○ボンベイ・コンベンション&エキジビション・センター (BCEC) / ムンバイ

1991年創業のセンターで、45,000㎡の展示場を中心に、会議ホール、屋外イベント・エリア、インターナショナル・ラウンジなどが配されている。

○プラガティ・マイダン／デリー

1982年オープンの展示場。10,000㎡のオープンディスプレイ・エリアと16のホールで計61,290㎡の展示スペースを有する。

メディアを飽きさせない 多彩なプログラム構成

IT & CMシリーズの展示会は、多彩なメディアプログラムも特長となっており、21日には後述する「オフィシャル・プレス・カンファレンス&キーノート」、「IT & CM India 2012 & ICPB レセプション・ディナー」、22日には、「GBTA 主催ビジネス・トラベル・マネージメント・コース」、「IMEX-MPI-MCI フューチャー・リーダーズ・フォーラム」、「MyCEB メディア・ブリーフィング」、「Meeting & Exhibition Hong Kong (MEHK) 主催ホステッド・ラ

ンション」、「インドネシア観光・創造経済省メディア・ブリーフィング」、「Taj ホテルス、リゾート & パレス・メディア・ブリーフィング」、「インドネシア観光・創造経済省主催ホステッド・ディナー」、23日には、前日に引き続き「GBTA 主催ビジネス・トラベル・マネージメント・コース」、「ICES メディア・ブリーフィング」、「HPL ホテル & リゾート・メディア・ブリーフィング」、「IT & CM India ネットワーキング・ランチ」、「IT & CM India メディア・フィードバック・セッション」が開催された。

基本、各メディア・ブリーフィングは、それぞれの国や都市、ベニュー・ヘインドからの MICE イベント誘

致を狙ったもので、それぞれに特典（支援策）を設けたキャンペーンの紹介が中心となった。また、プログラムの最後に行われたメディア・フィードバック・セッションは、今回のメディア・プログラムの総括となるもので、各メディアからは好評価を得ていた。セッションの後半に集中した VISA 問題については、改善の提案が多数寄せられ、ICPB も改善がインド MICE の今後に大きく影響することを認識しており、検討していきたいと回答している。ただ、初日のレセプション・ディナーの会場で、政府高官と思われる人物が「VISA があるのがインド」との発言も出て、この問題の解決には、まだまだ時間がかかりそうだ。





IT & CM India基調講演 インドMICEキーノート

サーク氏、マンシャラマニ氏にはさまれてフォトセッションに臨むヌグ氏

8月21日(火)、12時30分から、の「オフィシャル・プレス・カンファレンス&キーノート」が、オフィシャルホテルのジェイピー・グリーン・ゴルフ&スパ・リゾートのボールルームで開催された。

出席者は、International Congress & Convention Association (ICCA) CEOのマーティン・サーク氏、Global Business Travel Association (GBTA) アジア・パシフィック・リージョナル・ディレクターのウェル・J・エベリング氏、India Convention Promotion Bureau (ICPB) 副会長のチャンドル・マンシャラマニ氏。主催者を代表してTTG Asia Mediaマネージング・ディレクターのダーレン・ヌグ氏も登壇した。

マーティン・サーク氏は、「国際会議誘致競争に打ち勝つための課題」をテーマに講演。

「これまでハイデラバードを中心に、数多くの国際会議誘致に成功し

ているインドが、激化する国際会議誘致競争に打ち勝つためには、人口増加に伴う潜在的な経済成長に頼るだけでなく、効果的な誘致策を展開する必要がある。昨今の通信技術の発達やグローバル化によって、世界はどんどん小さくなっていて、競合国との差別化や優位性を打ち出すことは難しくなっている。キーワードは、官学民一体となったチームワーク、ハイテクや交通アクセスを含めたインフラ環境の整備、有識者の抱え込みなど。そのためには、高いレベルでの国際的な人材育成が急務となろう。近い将来、インドは世界一の人口を誇る国になることが決まっている。国際会議開催先進国の仲間入りするためには、解決しなければならない課題も多く、問題が解決されれば、インドが持つ高いホスピタリティやナショナリティをバックに、アジア有数の国際会議開催国になると期待している」と述べた。

続いて、ウェル・J・エベリング氏は、「インドのビジネストラベル事情」をテーマに、「インドのビジネストラベルは、2000年の68.5億米ドルから、2010年の180.5億米ドルへ約2.6倍に急成長。2015年には334億米ドルになる。その市場性には大いに期待したい」と、実態に則したグラフを示しながら予想した。

チャンドル・マンシャラマニ氏は、「今回のIT & CM India開催によって、インドが有数のMICEディステーションへと成長するための大きな一歩となると期待している。懸案の入国VISA問題の解決についても、前向きに検討している」と語った。

3氏のキーノート・スピーチに続き、マーティン・サーク氏、チャンドル・マンシャラマニ氏、ダーレン・ヌグ氏による基調講演の解説と質疑応答が実施され、盛大な拍手をうけ閉会となった。



ICCAのマーティン・サーク氏



GBTAのウェル・J・エベリング氏



ICPBのチャンドル・マンシャラマニ氏